

Profile

○hiromi (maruhiromi)

1991年、北海道に生まれる。

幼少期は母のコレクションである日本漫画家 手塚治虫を繰り返し読み、
漫画というデフォルメされている形状で、生物の愛しさ・残酷さを描く世界に影響を受ける。

学生時代にアトピー性皮膚炎を患い、コンプレックスが爆発した。

人を見ただ目で判断する世の中に辟易し、真っ黒の世界にいれば人の顔も見えないことに気づき、全てのモチーフを真っ黒に塗ることにした。
外的情報を遮断しその物と向き合った時に本当に生きている気がした。

1991 北海道札幌市生まれ

2019 グループ展「語る抽象画展8」The Artcomplex Center of Tokyo 東京 出展
公募展「ベラドンナアート展」 東京都美術館 入選
グループ展「ART POINT in Paris」 パリ 出展
グループ展「ART POINT Selection III」 東京 出展

2020 個展「○hiromi - 細胞感覚と思考 -」 東京 GALLERY ART POINT

2021 公募展 NAU21世紀美術連立展 推薦 出展
グループ展「語る抽象画展10」 The Artcomplex Center of Tokyo 東京 出展
グループ展「Dimension 2021」 GALLERY ART POINT 東京 出展
グループ展「真夏の夜の夢展」 ギャラリー TK2 東京 出展
ART FAIR「3331 ART FAIR 2021」 GALLERY AND LINKS 81 出展

2022年 個展「hanamaruと黒い人 展」 ギャラリー TK2 東京 出展

受賞

第5回 北海道美術協会主催 道展 U-21 優秀賞

黒にする。

夜の海のように、真っ暗で波の音だけが聞こえて。
ふと上を見ると昼の明るい世界で見えなかった星たちが姿を現す。
私たちが単純に目だけで見ている世界は、正しい世界なのだろうか。

現在は「hamamaru series」と「黒い人 series」の2つのシリーズを
平面・立体・インスタレーション、縛らずに表現をしています。

hanamaru series

日本では「○」maru という記号は正解や良い状態を表すことである。

海外ではテストにはチェックマークが正解。

丸い満月には狼や悪魔など悪いイメージがある。

日本人特有の○という形が「正しい」という感覚。

私の心の奥底は丸の形で出来上がっている。

幼い頃の記憶では、テストで○をもらえるのが嬉しかった。

はなまるをもらえたらもっと嬉しかった。大変よくできましたを

もらうために生きているようだった。

そういった「良いこと」「常識」を学び、私は「まる」で形成された人間になった。

たまに私の体や思考は「まる」から離れたくなる時がある。

しかし、歴史が今まで作り上げた世間体や常識がそれを許さない。

世界は「まる」でできている。でもそれは本当の丸なのか？

誰が描き出したかわからないはなまるは、私たちの心にひっそりと咲き続けている。

それは手書きではなく、どんどん常識や世間という力で美しい正円に近くなっていく。

正しさに凝り固まった美しいバランスの取れたはなまるになっていく。

それが本当に正しいのかもわからずに。

○という形を利用して、正しさをもう一度考える。

黒い人 series

私は現代病であるアトピー性皮膚炎を患っており、

外見に対し強いコンプレックスを抱いていた。

どんなに人は見た目じゃない！と言われても

人目が気になるし、悪気のない傷つく言葉も言われたこともある、

外に出ることもどんどん臆病になる。

外見差別なんてされたくない、その思いが爆発した時に、

みんな夜のように真っ黒になればいいのにと考えついた。

女性なのか、男性なのか、皮膚が何色なのか、どんな人なのか。

夜になり明かりがなければ目で何も理解できなくなるのだ。

黒の世界では姿なんて関係ない。

じっと見つめてくる人。3つにずれた丸い目。

人は見るものだけに左右されて、真実はどこにあるのか。

写真も動画ももしかすると全て加工品かもしれない。

本物とのずれを私たちは視認できるだろうか？